

Bambu Lab P1S利用ガイド

1. 概要

このマニュアルではFABスペースに設置されているBambu Lab P1Sの使用方法について説明していきます。スライスソフト「Bambu Studio」の使用方法については「Bambu Studio利用ガイド」にて説明しておりますので、そちらをご確認ください。

2. Bambu Lab P1Sの特徴

中国Bambu Lab社が開発、販売する3Dプリンターです。coreXY構造やセルフレベルングベッド、ノズルのセルフクリーニングといった先進的な機能を搭載する事で、速度500mm/s、加速度2000mm/s²に至る高速性、高い造形精度、安定性の両立を実現しています。また、AMS(Automatic Material System)を接続する事で多色、多素材での印刷を可能にしています。



3. 使用上の注意



公序良俗に反するもの、著作権、肖像権、作品のガイドラインを侵害しうるもの、商業的利益を生じうるものの製作、及びこれらを目的とした使用を禁じています。

もし、これらを侵害する不適切な利用と判断した場合は利用を停止いたします（本当）

不明な点はAVカウンターまでお問い合わせください。

また、ベッドやノズル等は高温になります。やけどや巻き込みなどにも十分注意し、安全に使用してください。

3. 出力する3Dデータの準備

3Dデータ(stl、obj など)は主に以下の3つの方法で用意できます。

①ダウンロードする

データ形式はSTL(.stl)を推奨しています

3Dプリント用のデータ配布、共有プラットフォーム、コミュニティが多くあります。それらからデータをダウンロードして出力する事ができます。

- prtintables
<https://www.printables.com/>
- thingiverse
<https://www.thingiverse.com/>
- cults
<https://cults3d.com/en>



printables



thingivers



cults



好奇心アヒル

②モデリングする

BlenderやMaya, Metasequoia等の3Dモデリングソフト、Autodesk Fusion, Inventor, Rhinoceros, Solid works, On shape等のCAD(設計支援)ソフトでデータを製作できます。極論的には.stlで出力できれば問題ありません。

③3Dスキャンする

3Dスキャナーでスキャンを行い3Dデータを作成することもできます。SFCのFABスペースでは、手持ちタイプ(POP3)とターンテーブルタイプ(Ein-Scan SE)の2種類の3Dスキャナーを利用できます。

4 Bambu Lab P1Sのスライスデータの準備

用意した3DデータをBambu Lab P1Sで出力できるスライスデータに変換するには以下の手順が必要になります。

①スライスソフト「Bambu Studio」に3Dデータを取り込む

②Bambu Studioを操作して、Bambu Lab P1Sの出力条件に設定を合わせる

③スライスデータ(.3MFファイル)として書き出す

①～③の基本的な手順は「Bambu Studio利用ガイド」に記入してありますので、そちらを参照ください。

5. Bambu Lab P1Sで出力する

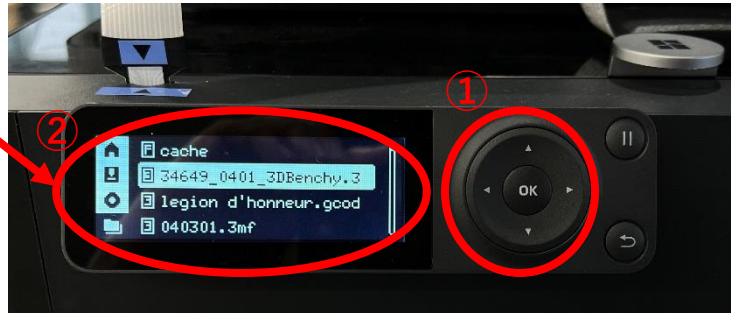
1)
データを保存したSDカードを変換アダプタにセットしP1S本体に挿入してください。

1)



2)
操作キーの↑↓を押し①、画面内のフォルダマークに合わせて、USBの中の3MFファイルが表示されます。
出力したいスライスデータを選択②し、「OK」を押します。

2)



3)
ファイル名と出力時間が5時間以内であることを確認し、「Print」が選択されている状態で「OK」のボタンを押します。
出力が始まるまで見届けてください。
(5分ほどかかります)
エラーなどで出力ができない場合は、AVカウンターへご相談ください。

3)



4)
出力が終了するとビルドプレートが停止し、プリントヘッドがホームポジションへ戻り、加熱が停止します。ビルドプレート温度が45度以下になった事を確認してから表面の磁気PEIシートを取り外し、出力物を剥がしてください。
うまく剥がれない場合は適宜スクレイパーを用いてください。この際、スクレイパーでPEIシートを傷つけないよう注意してください。

4)

